

第22回ASEAN+3農林大臣会合

(第22回^{アマフ}AMAF+3会合)

2022年10月26日

共同プレス・ステートメント

(仮訳)

1. 第22回ASEAN+3農林大臣会合は、ラオスの議長の下、ヴァーチャル会議形式で2022年10月26日に開催された。
2. 我々は、ASEAN+3協力戦略（^{アプティクス}APTCS）2016-2025における、食料安全保障の強化、持続可能な森林管理、気候変動の緩和及び適応、動植物の健康と疾病管理、能力開発と人材育成、農産物の生産性・品質・市場性の向上、情報システム・知識ネットワークと交流の向上、研究開発の戦略分野の取組の進捗を称賛した。
3. 我々は、ASEAN+3緊急米備蓄（^{アプター}APTERR）協定の下での実施における進捗を評価し、新型コロナウイルス感染症の影響下で緊急事態にあるカンボジア、ラオス、ミャンマー及びフィリピンに対する日本と韓国からの7,137.8トンのコメの拠出に係る取組を評価した。我々は、^{アプター}APTERR締約国に対し、この地域における不安定な気候パターン及び増加する自然災害の発生下での食料の入手可能性とアクセスを保証するた

めに、^ア^プ^タ^ー APTERRプログラム、特にTier1への関与を検討するよう奨励した。

4. 我々は、ASEAN+3食料安全保障情報システム（^ア^フ^シ^スAFSIS）、特に食料安全保障情報システムと人材育成に関する地域の能力強化の進展に注目した。我々は、コメ、とうもろこし、サトウキビ、大豆及びキャッサバを含む5品目の現状と見通しに関する参考資料として農作物将来展望報告書と早期警戒情報の公表を歓迎した。

5. 我々は、（1）環境にやさしい持続可能な循環型農業及び持続可能な森林管理の促進、（2）農業分野における有害な農薬の使用の削減、（3）自然由来の解決の促進、（4）脱炭素化の努力、（5）農林業分野におけるデジタル技術の適用、（6）畜産・水産養殖における生物的防除機構（BCA）の推進を含むが、これに限らない食料・農業・林業におけるASEAN協力の主要な優先分野を支持した。この点に関して、我々は民間部門を含むすべての関係パートナー及びステークホルダーが、これらの優先分野のためのプロジェクト又はプログラムの形成及び実施において、ASEAN事務局及びASEAN加盟国と手を携えることを奨励した。

6. 我々は、食料安全保障の改善には、強靱で持続可能な農業と食料システムが不可欠であることに留意した。

我々は、ASEAN+3諸国に対し、この過程で農業と食料システムに万能のアプローチはないことを認識しつつ、環境にやさしい持続可能な循環型農業の推進、強靱で持続可能な安定した食料システムの構築、気候変動への適応・緩和の発展、官民連携の推進、スマート・デジタル農業の応用、かんがい・水管理、バイオエネルギー、かんがい稲作システムにおける温室効果ガス削減のための地域活動への協力を更に強化するよう促した。

7. 我々は、日中韓各国による食料及び農林業におけるASEAN+3協力の向上に向けた継続的な支援とコミットメントに対し謝意を表した。

8. 我々は、第23回^{ア マ フ}AMAF+3会合を2023年にマレーシアで開催することに合意した。

9. 我々は、第22回^{ア マ フ}AMAF+3会合に際し、ラオス政府による見事な会合運営に心からの謝意を表した。